

2026年3月16日

国立大学法人東京科学大学  
理事長 大竹 尚登 殿

東京科学大学病院監査委員会

2025年度 第2回 東京科学大学病院監査委員会結果報告書

東京科学大学病院監査委員会規則に基づき、下記のとおり監査を実施しましたので報告いたします。

記

1. 監査日時

2026年2月17日（火）13:00～14:00

2. 監査方法

病院の安全管理体制等について、病院管理者、医療安全管理責任者、医療安全管理部長、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者へのヒアリングを行った。

3. 監査対象期間

2025年4月1日 ～ 2025年9月30日

4. 監査内容

- ① 院内ラウンドとして、医療安全管理委員会で検証した事例発生現場のD棟7階 歯科麻酔科、歯科手術室の現場確認および診療科長、看護師等へ質疑応答を行った。また、D棟7階 歯科手術室にて術後、ハイリスク患者として医科のリカバリーが必要となった場合、C棟5階 ICU-HCU までの患者移送時の導線に係る医療安全対策、医歯連携等について確認し、医療安全の更なる向上に繋がる検討事項等がないか実地監査を行った。
- ② 前回の書面監査結果および院内ラウンド結果に関する振り返りを行い、A棟2階 合同外科 外来処置室の什器・物品等のレイアウト変更あるいは交換等その後の改善状況について報告を受け、質疑応答を行った。
- ③ 監査対象期間における医療安全管理業務に係る活動報告及び管理体制の確認を行った。
- ④ 歯科麻酔科の事例A「レミフェンタニル過量投与事例」、事例B「挿管チューブのカフを除圧せず抜管した・しかけた事例」および事例C「プロポフォール過量投与事例」について、事例概要、経緯、患者・家族への説明と反応、再発防止策等について説明を受け、質疑応答による書面監査を行った。

## 5. 監査結果

- ① 院内ラウンドとして、D棟7階 歯科手術室にて術後、ハイリスク患者として医科のリカバリーが必要となった場合、C棟5階 ICU-HCU まで患者を移送する際の導線について確認した結果、患者を緊急かつ迅速に移送する必要があるケースにおいて、以下の通り意見が挙げられた。
  - ・通路が狭く、下り坂もあり、曲がり角を複数回通る場面も多く、待合患者とぶつかりそうな危険が潜んでいる導線であると感じたが、ハード面を即座に改善することは、容易でないと判断する。
  - ・藤井病院長から発言があった『近い将来、医科手術室に歯科手術室を統合することを検討中である。』という構想案を推進することが、医療安全を向上させる改善策の1つとなり得る。
- ② 前回監査結果の内容を振り返り、「書面監査」については、是正措置を講じるような課題等はなく、医療安全に関する内部通報事案に対する内部調査の検証、提言の取り纏め等の活動や活用方法について高く評価するという結果であったことを確認した。

「院内ラウンド」に係る A棟2階 合同外来処置室の改善状況については、インシデントの要因となり得る処置台等のレイアウト変更および交換が完了しており、多職種間（看護師、理学療法士等）での改善に向けた検討が継続的に行われている状況であることを確認した。
- ③ 監査対象期間における医療安全管理業務に係る活動報告および管理体制について、適切に活動、管理されていることを確認した。
- ④ 歯科麻酔科の事例 A「レミフェンタニル過量投与事例」、事例 B「挿管チューブのカフを除圧せず抜管した・しかけた事例」および事例 C「プロポフォールの過量投与事例」について、改善に向けて医療安全管理部も介入し、再発防止等の取り組みや対応が適切に行われていることを確認した。

### 【 総評 】

医歯一体化後も、医科と歯科の医療安全は、前提となる科学的知見や制度の在り方も異なる事項が顕在化することもあるが、歯科の医療安全の水準をより高めていくことを推奨する。今後、医科手術室に歯科手術室を統合する構想案についても、十分に検討したうえで、医歯共通の文化や習慣の構築が必要である旨、意見があった。

以上